

正 誤 表

頁 ・ 行	誤	正
370002 下から1行目	主管調査管を……………	主管調査官を……………
420002 下から8行目	日本モータ・ブライダ・	日本モータ・グライダー・
423002 下から8行目	11時06分ごろ松原市……	14時06分ごろ松原市……
437003 下から4行目	20時14分に、同機に……………	18時14分に、同機に……………

航空事故調査報告書

日本航空株式会社所属
ボーイング式747-200B型JA8155
新東京国際空港の東330Km付近
昭和58年9月11日

昭和58年12月14日

航空事故調査委員会議決（空委第65号）

委員長	八田桂三
委員	榎本善臣
委員	糸永吉運
委員	小一原正
委員	幸尾治朗

1 航空事故調査の経過

1.1 航空事故の概要

日本航空株式会社所属ボーイング式747-200B型JA8155は、昭和58年9月11日、同社の定期便として米国のロスアンゼルス空港から新東京国際空港へ向けて飛行中、15時30分ごろ、新東京国際空港の東330km付近の公海上空において、同機内の旅客1名が病死した。

1.2 航空事故調査の概要

1.2.1 事故の通知及び調査組織

航空事故調査委員会は昭和58年10月5日、運輸大臣から事故発生の通報を受け、当該事故の調査を担当する者として主管調査官を指名した。

437002

1.2.2 調査の実施時期

昭和58年10月12日 事実調査

2及び3 認定した事実及び事実を認定した理由

JA8155は、昭和58年9月11日、旅客329名（幼児6名を含む。）、乗組員24名（運航乗務員5名、客室乗務員19名）が搭乗し5時18分（日本標準時。以下同じ。）米国のロスアンゼルス空港を離陸し、新東京国際空港へ向けて飛行中、同空港の東330km付近の公海上空において、15時20分ごろ、座席27Fの男性旅客（43歳）が発作を起こし、呼吸困難の状態となった。客室乗務員は、直ちに座席を倒し、衣服等をゆるめると共に、酸素吸入を行う一方、機内放送により医師の助力を求めた。これに対して、医師2名の援助申し出があり、直ちに診察し、心臓マッサージ及び人工呼吸が行われた。15時40分ごろ、医師2名が死亡をほのめかしたものの、心臓マッサージ及び人工呼吸が続けられた。

同機は16時08分新東京国際空港に着陸し、16時12分に駐機した。16時25分に先に手配した救急車が到着し、救急隊員が搭乗して、医師2名に代って心臓マッサージ及び人工呼吸を継続した。

その後20時14分に、同機に到着した警察医により同患者の死亡が確認され、死因は心不全であり、死亡推定時刻は15時30分ごろ（飛行中）と診断された。

4 原因

本事故は、飛行中に旅客が心不全により病死したものと認められる。

437003